



漁業権漁場における有用魚介類の生息状況等について



水産総合研究センター内水面水産研究所



1 目的

漁業権が設定されている河川湖沼において魚介類相調査を実施し、有用魚介類※¹及び特定外来生物等の生息状況を把握する※²

※¹本報では有用魚介類のうち、有用魚類を漁業権魚種、有用甲殻類をテナガエビ類、スジエビ、モクズガニ、有用貝類をヤマトシジミとした

※²内水面水産資源の生息状況等の調査は、内水面漁業の振興に関する法律により県の努力義務



テナガエビ



スジエビ



モクズガニ

2 方法

(1)魚類・甲殻類の調査

手賀沼と印旛沼は毎年度、他の漁業権漁場は約10年毎に採捕調査
魚類については、令和2年度から環境DNA分析により種類を補完

年度	調査月	河川湖沼	調査方法
平成28年度	6,9,10月	栗山川	投網、刺し網等による採捕
平成29年度	7,11月	夷隅川	投網、刺し網等による採捕
平成30年度	7,10月	養老川	投網、刺し網等による採捕
令和元年度	3,7,8月	小櫃川	投網、刺し網による採捕
令和2年度	6,11月	湊川	投網、刺し網等による採捕、環境DNA分析
	9,10月	小糸川	投網、刺し網による採捕
令和3年度	8,10,12月	利根川（内共14号）	ふくろ網、刺し網等による採捕、環境DNA分析
令和4年度	6,7,10,11月	与田浦	張網、刺し網等による採捕、環境DNA分析
令和5年度	6,7,9月	南白亀川	ふくろ網、刺し網等による採捕、環境DNA分析
	7,11月	利根川（内共10号）	ふくろ網、刺し網等による採捕、環境DNA分析
平成28年度～	6-7,10月	手賀沼	張網による採捕
	6,10月	印旛沼	張網による採捕

※利根川（内共11号）は、令和6年度に実施

(2)貝類(ヤマトシジミ)の調査

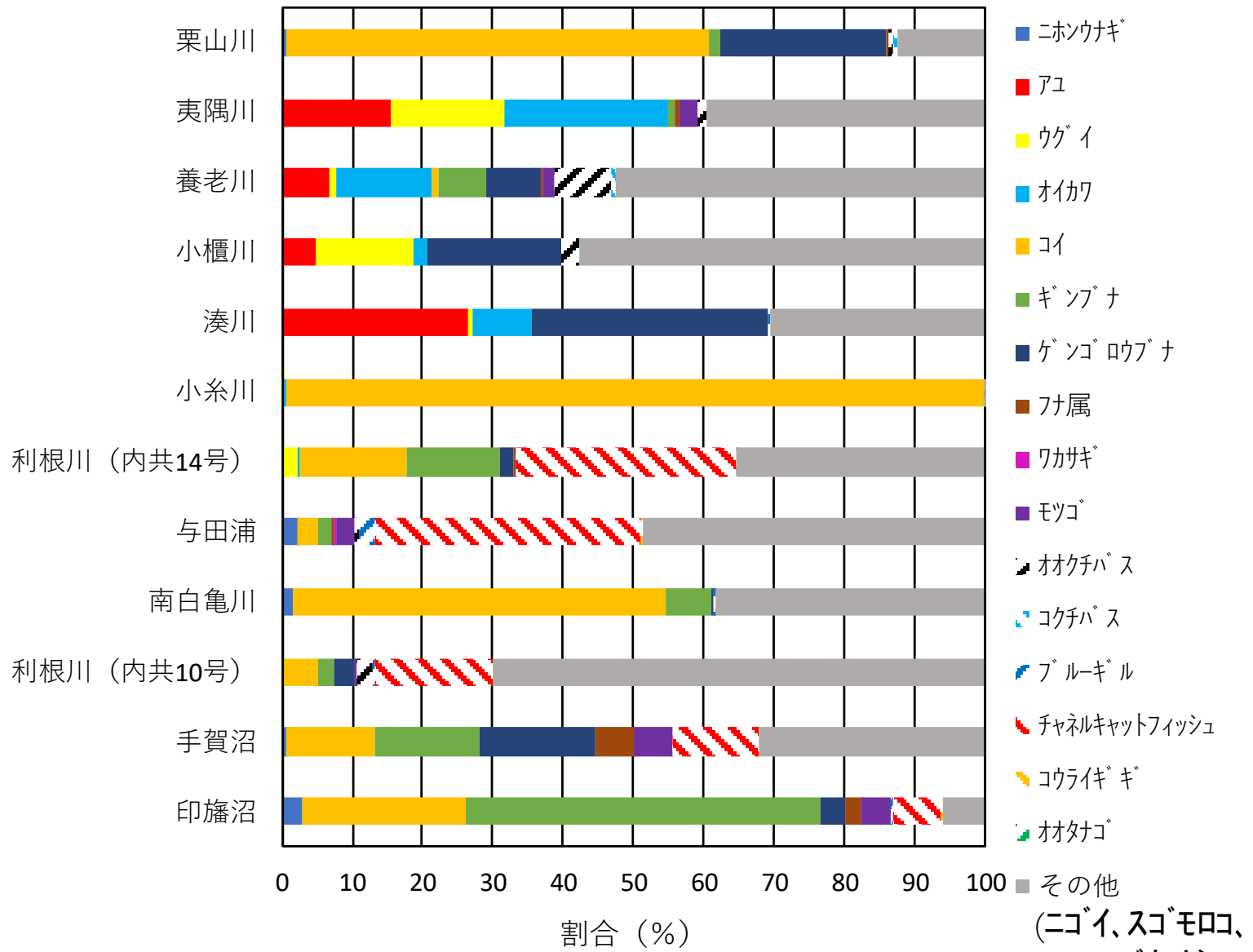
漁業権を免許された小櫃川及び採捕許可を受けている利根川下流域の
ヤマトシジミを対象に毎年度、採捕調査

3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ①魚類の種類

河川湖沼	ニホンウナギ	アユ	ワカサギ	ウグイ	オイカワ	コイ	ギンブナ	ゲンゴロウブナ	モツコ	オオクチバス	コクチバス	ブルーギル	チャネルキャットフィッシュ	コウライギギ	オオタナゴ	その他	種類数
栗山川	○				○	○	○	○	○	○	○					11	19
夷隅川		○	○	○	○	○	○		○	○						9	17
養老川		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				15	26
小櫃川		○		○	○			○		○						11	16
湊川		○		○	○			○				○				6	11
湊川(環境DNA分析)	○	○		○	○	○		○	○							11	18
小糸川				○	○	○				○						2	6
利根川 (内共14号)	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○			15	25
利根川 (内共14号) (環境DNA分析)						○			○			○	○			7	11
与田浦	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	15	28
与田浦 (環境DNA分析)					○	○		○	○	○		○	○	○		9	17
南白亀川	○					○	○	○	○			○				10	16
南白亀川 (環境DNA分析)	○					○		○	○	○						6	11
利根川 (内共10号)	○			○		○	○	○	○	○		○	○			12	21
利根川 (内共10号) (環境DNA分析)	○					○							○			5	8
手賀沼	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		10	21
印旛沼	○		○		○	○	○	○	○			○	○	○		14	24

※手賀沼、印旛沼は令和5年度の結果

3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ②魚類の重量組成

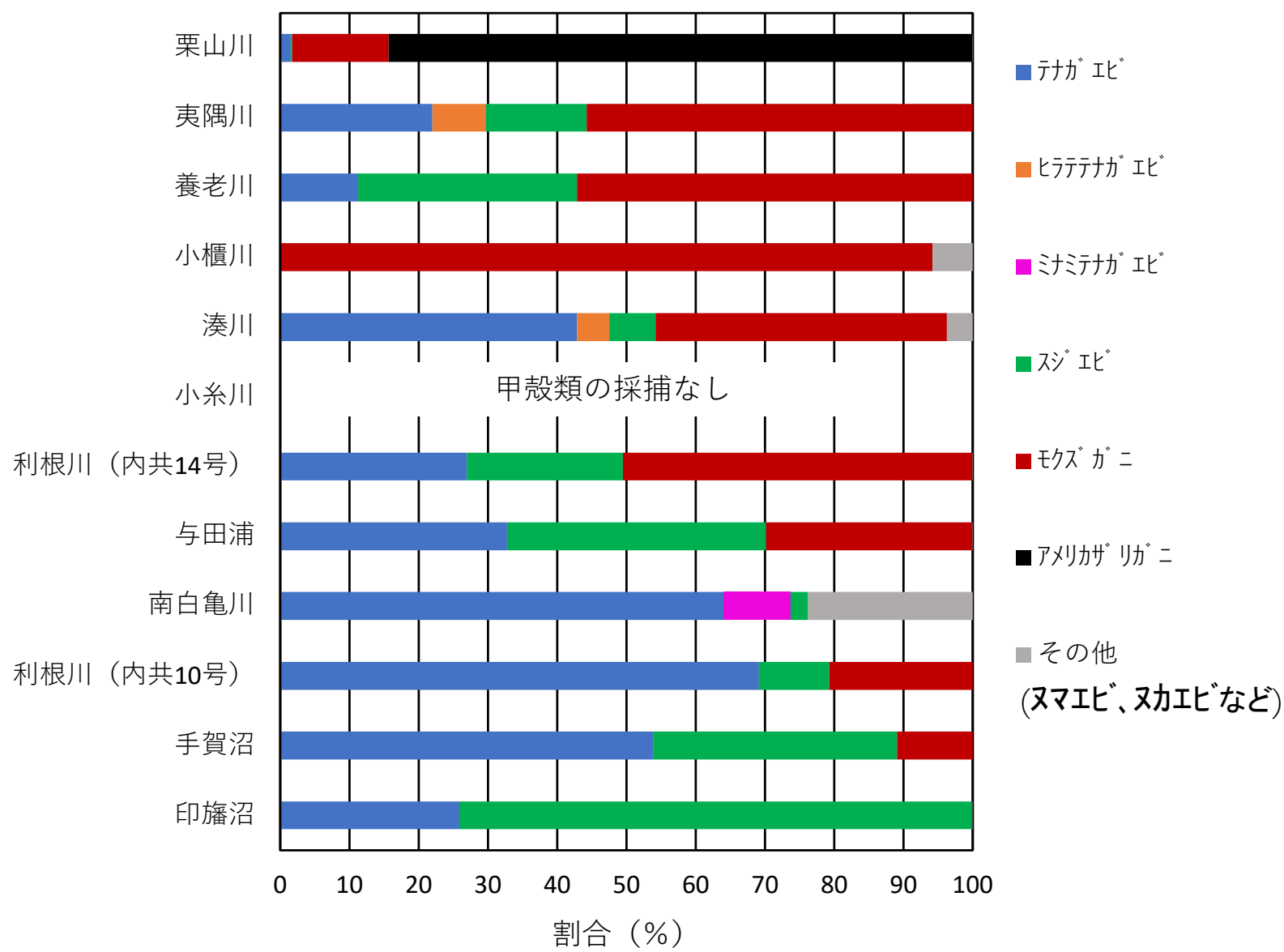


3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ③甲殻類の種類

河川湖沼	テナガ`エビ`	ヒラテ テナガ`エビ`	ミナミ テナガ`エビ`	スジ`エビ`	モクス`ガ`ニ	アメリカ ザ`リガ`ニ	その他	種類数
栗山川	○			○	○	○	シナマエビ`	5
夷隅川	○	○		○	○		ヌカエビ`	5
養老川	○			○	○			3
小櫃川					○		サワガ`ニ	2
湊川	○	○		○		○	ヌマエビ` 他2種	7
小糸川								0
利根川 (内共14号)	○			○	○		チュウコ`クスジ`エビ` 他1種	5
与田浦	○			○	○		イサ`アミ他1種	5
南白亀川	○		○	○			ヌマエビ` 他6種	10
利根川 (内共10号)	○			○	○			3
手賀沼	○			○	○			3
印旛沼	○			○		○	チュウコ`クスジ`エビ` 他1種	5

※手賀沼、印旛沼は令和5年度の結果

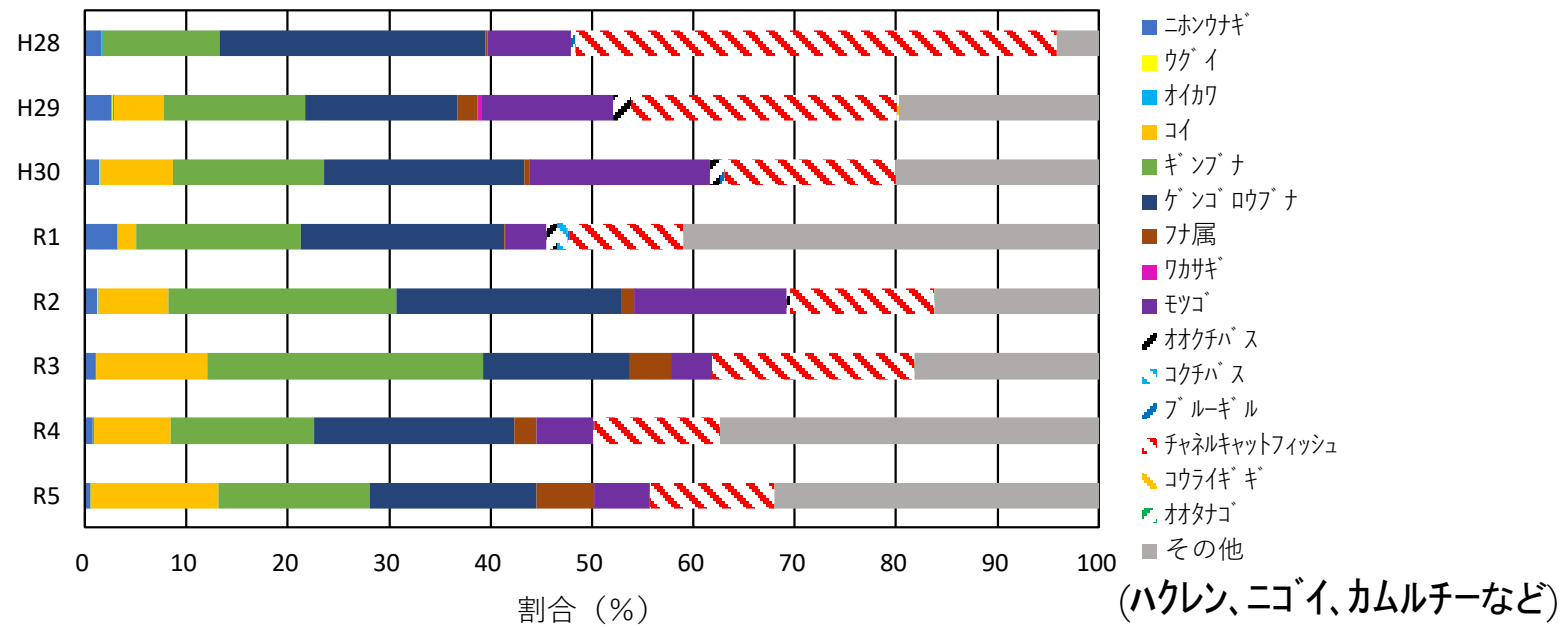
3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ④甲殻類の重量組成



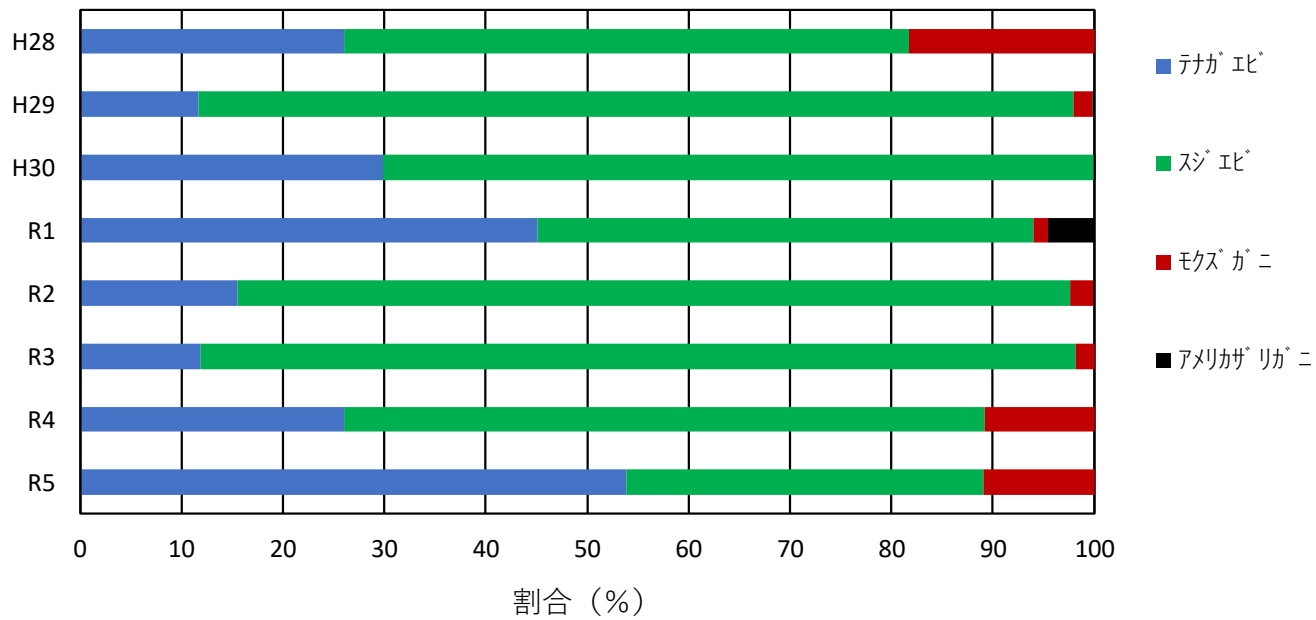
※手賀沼、印旛沼は令和5年度の結果

3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ⑤手賀沼の重量組成の推移

魚類

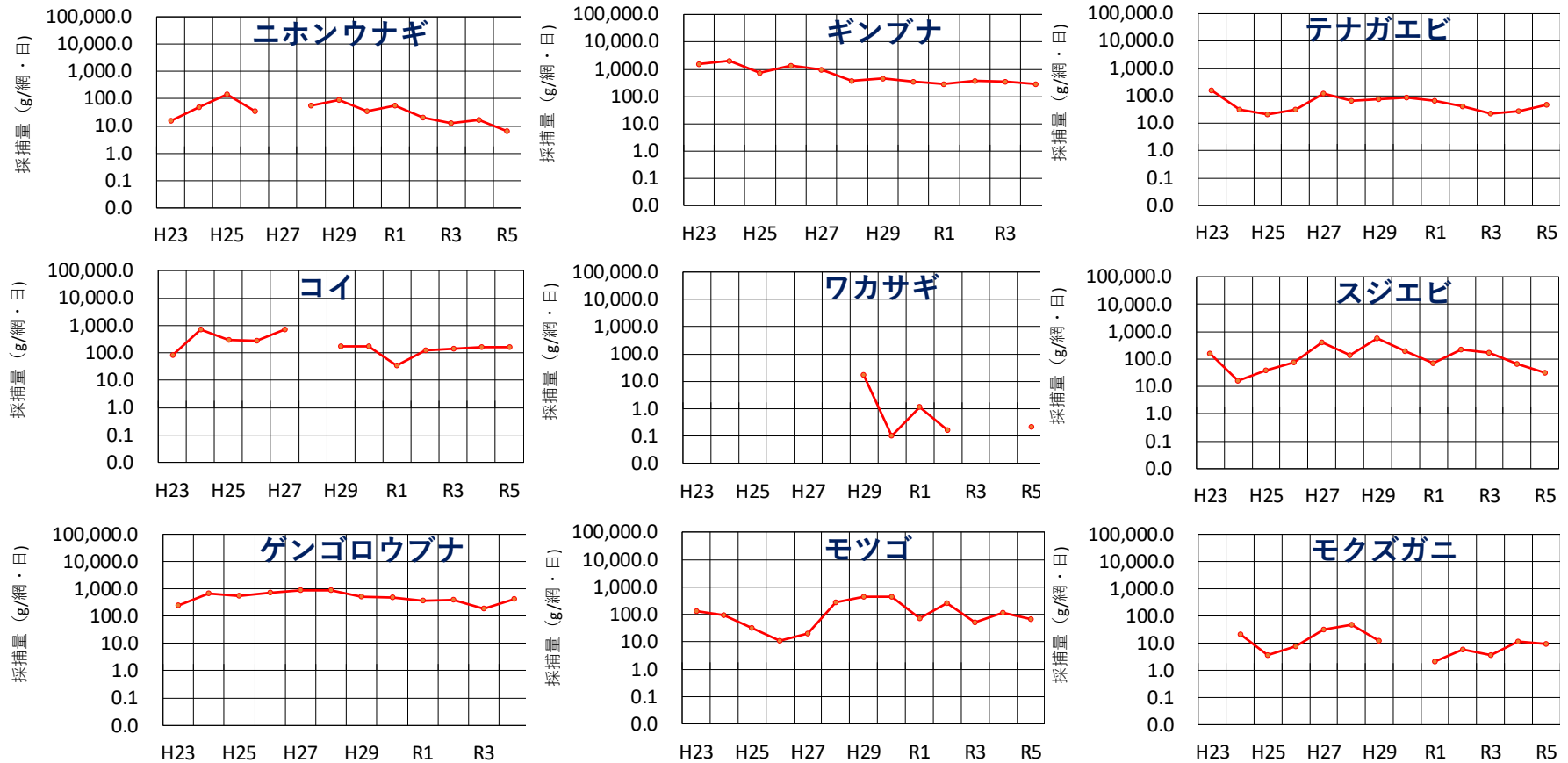


甲殻類



3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ⑥手賀沼の採捕量の推移

張網の1網1日あたりの採捕量(平成23年度～令和5年度)



増加傾向:なし 減少傾向:ギンブナ

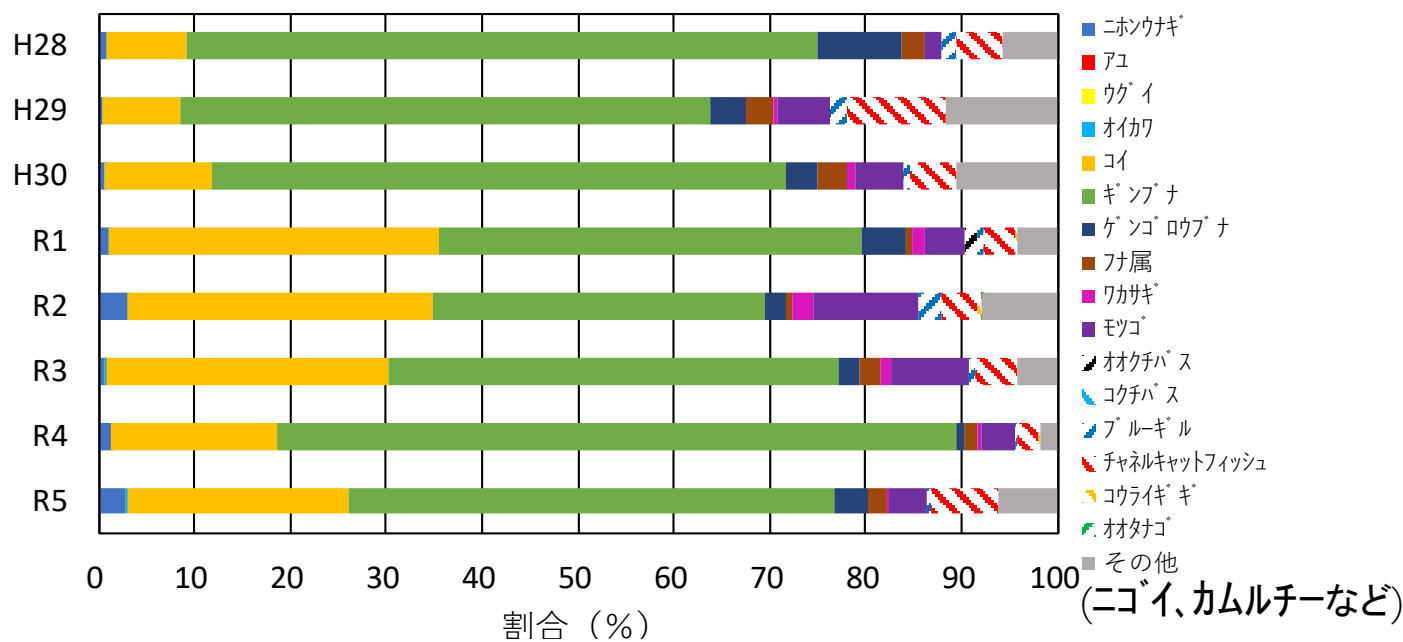
殆どの有用魚介類の採捕量は横ばいで推移

※縦軸は対数目盛

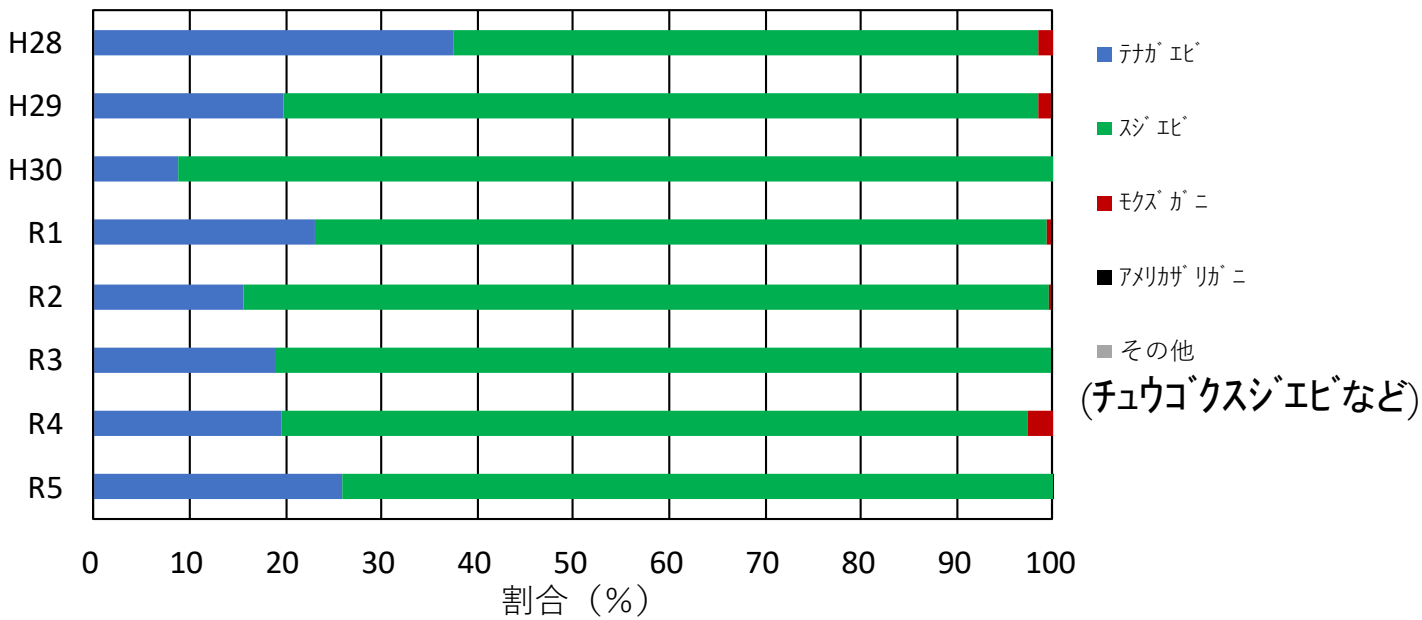
傾向は、採捕量のデータに直線を当てはめ、その傾きが有意に上向き(増加傾向)、下向き(減少傾向)により判定

3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ⑦印旛沼の重量組成の推移

魚類

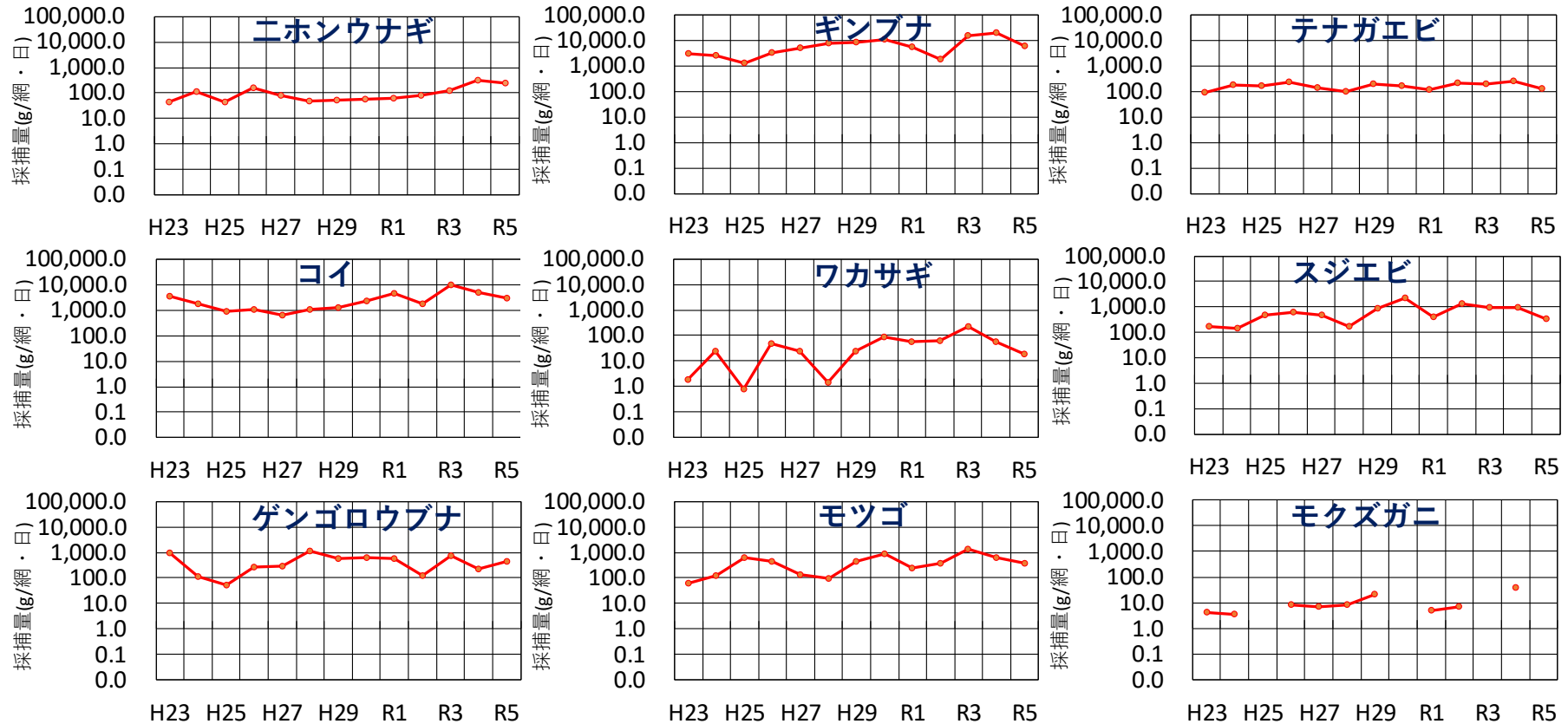


甲殻類



3 結果 (1)魚類・甲殻類の調査 ⑧印旛沼の採捕量の推移

張網の1網1日あたりの採捕量(平成23年度～令和5年度)

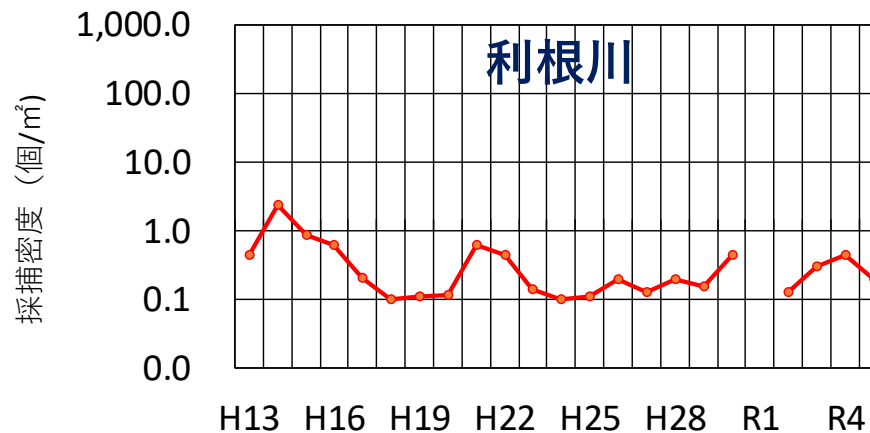
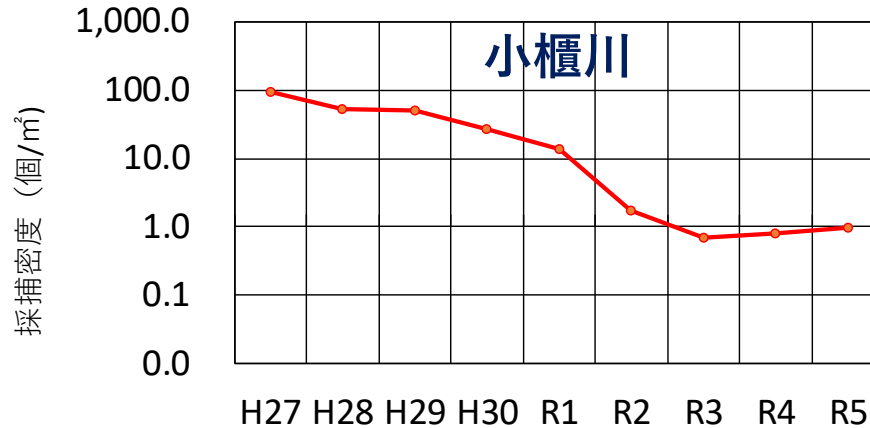


増加傾向:ニホンウナギ,ギンブナ 減少傾向:なし
殆どの有用魚介類の採捕量は横ばいで推移

※縦軸は対数目盛

3 結果 (2)貝類(ヤマトシジミ)の調査

ヤマトシジミの採捕密度の推移



※令和元年度の利根川は未調査

小櫃川では平成30年度から令和2年度にかけ採捕密度が低下し、令和3年度以降、低位

→令和2年度以降、資源保護のため禁漁

利根川では平成22年度以降、採捕密度が0.1～0.5個/m²の低位で推移

→平成22年度以降、ヤマトシジミの漁獲なし

採捕された特定外来生物



オオクチバス



コクチバス



ブルーギル



チャネルキャットフィッシュ



コウライギギ

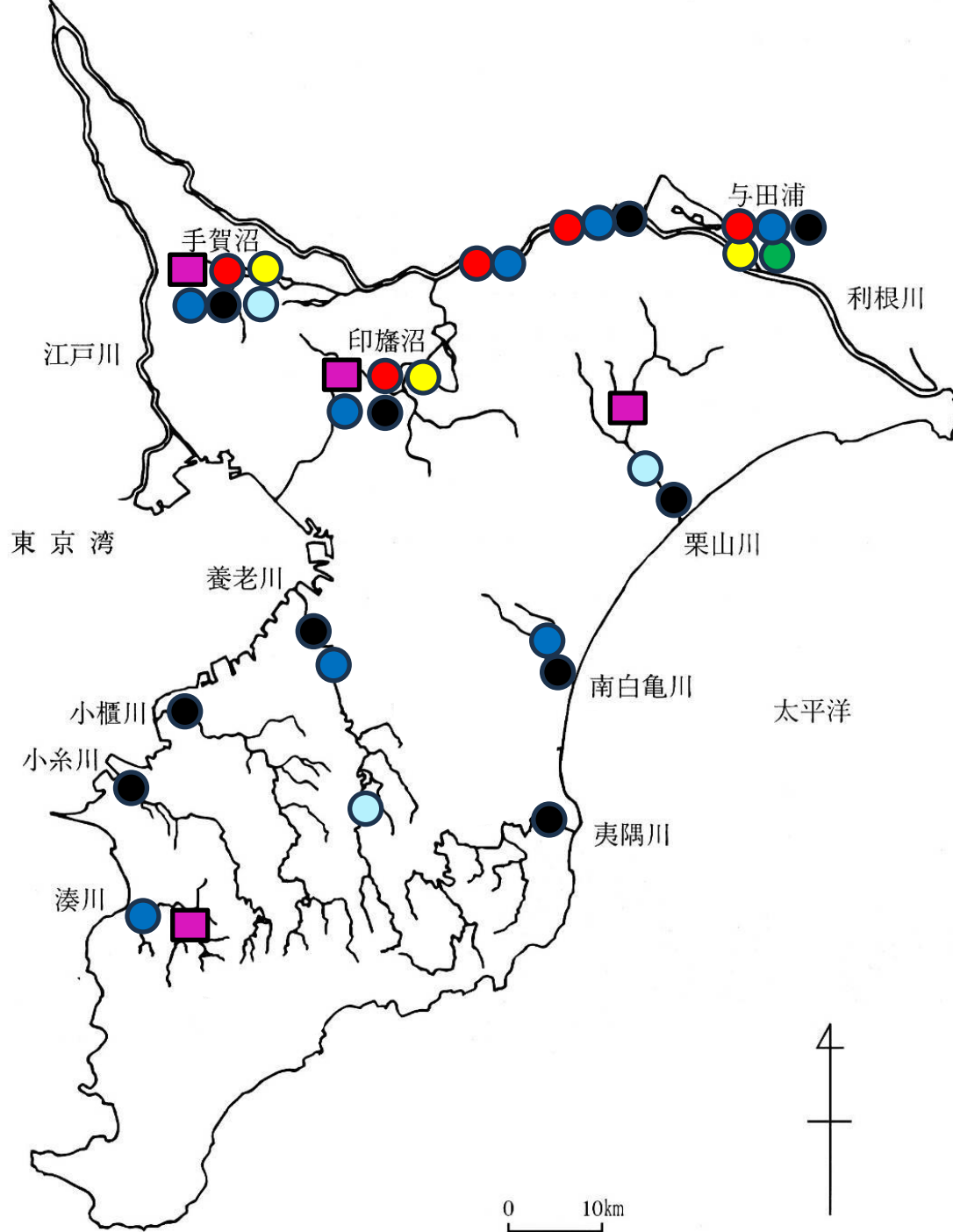


オオタナゴ



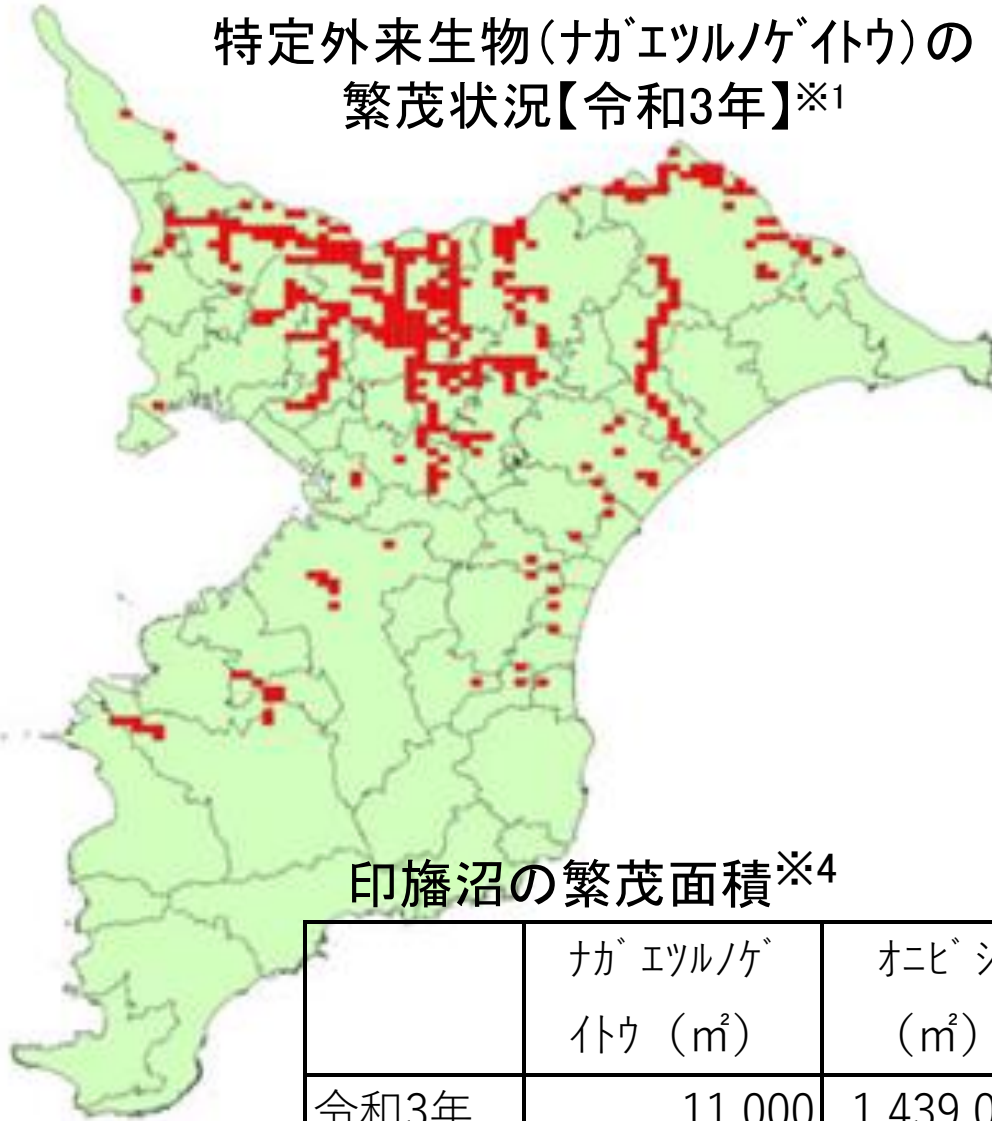
アメリカザリガニ
【条件付き】

採捕された特定 外来生物の分布



4 情報提供

特定外来生物(ナガエツルノゲイトウ)の
繁茂状況【令和3年】※1



印旛沼の繁茂面積※4

	ナガエツルノゲ イトウ (m ²)	オニビシ (m ²)
令和3年	11,000	1,439,000
令和4年	11,000	1,262,000



ナガエツルノゲイトウ※2



印旛沼飯野地先の群落※3

出典

※1,2: 千葉県生物多様性センターHP

※3,4: 印旛沼(第44号),(公財)印旛沼環境基金

5 まとめ

- 有用魚類(漁業権魚種)は、利根川と与田浦以外の重量組成の39～99%を占め、多くの漁場で有用魚類が優占していると推測
- 利根川と与田浦では、有用魚類の重量組成が10～33%である一方、ハクレンの重量組成が11～61%、チャネルキャットフィッシュの重量組成が17～38%を占め、これらの外来魚が優占していると推測
- 有用甲殻類(テナガエビ類、スジエビ、モズガニ)は、栗山川以外の重量組成が76～100%を占め、多くの漁場で有用甲殻類が優占していると推測
- 有用貝類(ヤマトシジミ)は、小櫃川と利根川で毎年確認されたが、生息密度は低いと推測

